

あさお希望のシナリオプロジェクト 第9回検討会 (2021/4/25)
全体発表摘録

テーマ

前回検討した「ソーシャルデザインセンターに必要な機能」を念頭に、「麻生区にSDCを設立するには、どのような形態が考えられるか」「麻生区にSDCを設立するには、どのような形態であれば実現できるか」現在考えるあなたの提案を自由にお聞かせください。

【グループ1】

- ・色々な意見や反対の意見なども出て、まとまっていないが、議論を始めるときに、幸区と多摩区のSDCの状況を聞いた上で議論をスタートした。
- ・(形態の論点として) 4つほどあった中の「主体」と「拠点」と「エリア」については色々な意見が出た。まず、「運営主体」として、誰が動かしていくのかというところでは、誰かまとめるような人がいないとまとまらないので、経験のある人材をどう集めるのか、(シナリオ)メンバーの中からうまく出てくるといいな、という意見が出た。また、既存団体として麻生市民交流館やまゆりがあるので、そこが少し力になっていただけるのではないかとといった意見や、麻生区内には色々な団体があるので、そこを主体としたり、場所の提供を受けたりといった連携ができないか、といった話があった。
- ・次に、「拠点」について。拠点の話もいっぱい書いてあるが、メンバーの中での意見は、やっぱりリアルな場があった方がいいという意見が出た。それも、可能なら目につきやすいような駅に近いようなところで、小さくてもいいから、あるといいのではないかと意見が多かった。一方で、リアルの場に拘るというよりは、情報を集約するような機能が重要なんじゃないかということで、インターネット等を使って、情報を集約・発信するような形態もありうるのではないかと、という、割と反対の意見もあった。
- ・では、どうやってリアルの場を設けるかという話では、「区役所のスペースは空いてないか」という意見や、「水道局の事務所が使っていなさそうなところがあるから、そうした行政財産は使えないか」という意見が出た。結構突っ込んだ意見としては、「最初に行政に買ってもらって、10年後無償で払い下げてもらったらいいのではないかと」といった意見が出ていて、行政がどう力になっていただけるかというところもあるが、多様な意見があった。
- ・「エリア」については、既に多様な活動がされているので、その活動に寄り添った既存団体が主体となるような所でやったらいいのではないかと、とか、そういった場所では町会が既に色々な活動をしているので、そこを主軸にするのもいいのではないかと、というような意見があった。一方、町会は最初入りづらかったり、若者からするとそこで何が自分の経験というかメリットがあるのかというのがイメージしづらいといった、機能・役割面で違う意見が出たのも面白かったかなと思った。

- ・そうした中で、エリアという意味では、柿生のような再開発が計画されている場所や、うまくいっているような地域でスモールスタートして、モデル的に成功事例を積み重ねることで、色々なしがらみとかを突破するというか、うまくこれから色んなことが回っていくのではないかというような意見が多かったという印象。

【グループ2】

- ・グループ1と同じように、多摩区SDCの話や、やまゆりの話を聞いた上で、形態について考えていった。意見としては、青字で囲ったところが主なものになるが、まず知ってもらうことって大事だよねという意見や、各地域の利用しやすい場所にあると良いという意見があった。今までの検討会の中で、活動場所を訪問したりしてきたと思うが、今の団体がもうちょっと参加しやすかったりとか知ってもらいやすいように、今の団体がより集まりやすく、そのためにSDCを作っていければいいよねという意見や、あとはやっぱりスモールスタートとして、既存の活動団体とか主体があるから、そういうところをうまく生かして、小さい地域から始めていけばいいのではないかという意見があった。さきほども、成功事例を作るという話が出たが、そういうところもやっぱり大事だという意見もあった。
- ・簡単なまとめとなるが、栗木だったり高石だったり五力田だったりとか、そうした小さい地域での活動を少しずつ支援して行って、成功事例を重ねたり、地域の地盤を固めていくっていうところでスモールスタートを切る、地域から始めてみるといいという意見が、大きくまとまったところ。
- ・それで、その場合も3つの機能が必要ということで、レジユメの「優先的に検討するべき機能」というところを書いてあると思うが、情報収集・提供の機能、既存団体間のネットワーク構築機能、コーディネート・マッチング機能、これらについて具体的にこれからどういう風に枠組みを決めていければ、麻生区のSDCとして機能を出していけるのかっていうことを、これから検討できればいいなというところでまとまった。

【グループ3】

- ・3グループでは、エリアを限定すると視野がせまくなるのではないかということで、エリア限定は行わず、全体的に考えていった方がいいのではないかという話が出た。
- ・麻生区のSDCをスタートするには、SDCという呼び名ではなく、分かりやすい日本語のネーミングが大切じゃないかという話があった。また、やまゆりがやまゆりという愛称で呼ばれて親しまれているように、愛称が必要じゃないかという話が出た。
- ・既存団体の活用ということで、色々なノウハウがあるので、(活動を通じて)若返りを図りたいねという話も出た。
- ・色々な民間企業との連携をして、SDCを確実なものにしていきたいなという話も出た。
- ・運営主体については、誰がどこで何をやるの、どうやってやるの、という意見が出て、拠点についてもやはりあった方がいいという意見が多くあった。ただ、拠点はなくても定期的な

場所があればいいんじゃないかなという意見もあった。資金調達については、一番難しいねということで、拠点が生み出せるようなところになればいいのかなという意見があった。

- ・「誰がどこで」というのは、優先的に考える3つ機能の中でリーダー的な人を作っていけば、そこから活動団体が出てきて、SDCの活動を運営することができるのではないかと、また、希望のシナリオプロジェクトのメンバーには、タレント的な人がたくさんいるので、実現が可能じゃないのかなと考えている。
- ・ちょっとおさらいすると、場所の問題として、「やっぱり拠点はあった方がいい」という意見がかなり多かった。ただ、その拠点は常設ではなくても、例えば月に1回この場所を借りて集まるという意味での拠点も含まれている。どうあれ、拠点はあった方がいいという話になった。
- ・あとは、ポータルサイトなど色々な具体的な話や意見も出たが、やっぱり運営主体について、ちょっとなんとなくあやふやな状態で進んでいってしまっているのだから、なかなか第一歩が踏み出せない、具体化できないという意見が出た。だからまず、実際に誰がやるのか、どこでやるのか、どうやって、何をやっていくのかってところがすごく大切だなんていう話になった。もちろん、資金調達なども、最初から考えておかないと立ち行かなくなってしまうということと、あと運営主体というのは既存団体や企業の協力をお願いする可能性があれば、ここに集まっているメンバーということもありうるけれど、やっぱりキモは具体的に誰がやるのかということ、まず決めていかないといけないという話が出た。
- ・そして、8つの中で3つ重要な機能、「情報収集」、「ネットワーク機能」、「コーディネート機能」。これらをグループ分けして、分科会的にある程度具体的に立ち上げて、その中で得意な人がそれぞれに集まれば、なんとなく中心的な役割を担う方が出てくると思うので、その方たちをここに引っ張ってきて活動主体の核となるものを作り上げていったらどうかという話が出た。
- ・あと、さっきも出たけれど、SDCという名前は分かりにくい、イメージしにくいので、シナリオメンバーでもなんとなくもやもやした感じを持っている方がいると思うが、一般区民にとっては何のことか本当に分かんないと思うので、もうちょっとイメージしやすいような日本語をつけたり、ニックネーム、愛称的なものがあると、親しみやすくなるねという意見もあった。

【グループ4】

- ・拠点とエリア、予算、運営主体、の観点から話をした。拠点についてはあった方がいいという意見が多かった。事務所機能があると資料がおける、現在は市の後援等がないとチラシが置けないので、誰でもおけるような場所があったらいいと。
- ・また、ふらっと人が集まれる場所があったらいいという意見が出た。新百合ヶ丘の周辺は10

軒に1軒が空き家ということで、空き家の利用も考えられると。ただし、課題もあって、拠点を作ったら行政からの支援がなくても続けていけるような仕組みづくりをしなくてはならないという意見もあった。

- ・エリアについては、麻生区全体でまずはやってみたらどうかという意見と、小地域でやった方がという意見が出た。小地域については、自分達の地域の方が意見を反映しやすいからという理由。多く出たのは、まずは麻生区全体を対象に作った方がいいのではという意見。小地域だとばらつきがあるので、全体の方が統一感が出るのでいいのではという意見が多かった。小地域にしたときの課題としては、町内会で高齢の方が担っていて若い方につなげられないということの解決になってしまうようなことがあるので、そういうところに絞るのではなく、多世代間の解決をつなげられる方がいいということで全体でという意見が出た。
- ・運営主体は、満場一致で「あさお希望のシナリオプロジェクト」のメンバーがやるという意見だった。長寿のまち、緑が多いまちをいかすところだが、裏側で高齢化という課題もあり、そういう課題に取り組むためには、戦略的な取組が必要で経営的な問題が出てくる。責任が伴うということで、責任の所在があいまいになってしまうので、メンバーがやっていった方がいいのではという意見が出た。必要な人材が出たら、それはそれで募集していけばいいのではということだった。
- ・資金の調達については、多摩区のSDCの資金調達の現状を聞いて、現状は難しいと。最初の予算のルールを決めないとどうやって使っているかわからないということがあったり、収入を得るための新しい事業を作ることが難しいという現状があるようだ。学生の人材育成をして、寄付をもらえないかということを考えていて、新しい会社をつくるようなイメージでやっているということだった。
- ・秋田県の「こみっと」という活動拠点が注目をあびていて、国や県から補助金をもらっていて、麻生区でも高齢問題や登戸の事件等の対策をとることで全国から注目をあびて補助金をもらえるのではという意見があった。

【オンライングループ】

- ・資金などカテゴリー別に話すのではなく、ざっくりと皆さんの意見を聞いてみるという形で進めた。
- ・共通意見として出たのは「まず始めてみたい」「できるところから、気軽に、小グループで始めてみるのがいいのでは」「はじめることで運営主体の中でコミュニケーションが生まれたら、やってみることでトライ&エラーで必要なことが見えてくるのでは」といった意見だった。
- ・麻生区の現状として、麻生区では拠点多くあって、やまゆりもあるし、活動団体も多くある中で、それらとの差別化、やまゆりとの差別化等、かぶってしまうのではないかと意見が色々出た。その中で二つ、ネットワーク型、例えば情報集約について、既に拠点はいっぱいあって、活動はいっぱいあるので、それを集約して横のつながりを作れたらいいという

案がひとつ。HP にのせるだけでなく、他の団体の活動を知ることができたり、あやしい団体ではと思われるという不安があるなかで、市の HP にのせることで安心して参加してもらえるのではないかという意見があった。市の HP 等で一元化して情報を載せてほしいという意見があった。そういう形で、ネットワーク型でやってみたらどうか。その形なら労力も少ない。ただ、なかなか常設で場所があるわけではないので、自分からアクセスして知りたいと思った人しか情報が届かないといったところはデメリットがあると感じた

- ・拠点型で、場所を設けた場合、気軽に参加できて、この情報があって、イベントがあって、という点では拠点型はすごくいい。週1のカフェでも常設でもやり方は検討していく必要がある。ただし、創り上げるのに労力がかかるし、資金の検討も必要。
- ・資金を集めるのは助成金等で集めていって、人材は皆様が色々な知識や経験を持った方々なので、希望のシナリオのメンバーで始めてみたいという意見が出た。

(以上)